

# 巻頭のことば

渡部 賢宗

本学の開校二十周年を記念して、研究紀要記念号が刊行されることになった。記念号といつても通巻二十号となるものであつて事新しい機軸のものではない。然しその名に値するものといえば、例年に比して数多くの論文が収録されたことと、九・一〇合併号より一九号に至るまでの論文表題及び一号より一九号に至るまでの執筆者名を巻末に掲載し、研究者の便に供したことであろう。

研究紀要は、いうまでもなく、研究の成果を世に問ひ、且つ資料として学界に提供するものであるが、これが各大学の研究紀要との交換によつて、研究者間の交流媒介の役を果し、相互に研究促進を図る機関物でもある。

本学は、歴史も浅く、教養部と国文科一科の短大という性格上、また過疎遠隔の地にあるという関係から、本学に勤務する研究者にあつては、学的作業の根本要件である資料の蒐集等は不利なる環境にある。年を逐うて改善が図られてはいるが、格差は依然たるものがある。かゝる不備を、創意工夫と努力によつて補いつ、研究される諸先生の姿には頭の下がる思いがする。それだけに、紀要による研究者の学的交流の拡大深化と、それに伴う切磋琢磨が切望されるのである。今後より一層のご交誼ご支援をお願いする次第である。終りに臨み、論文を執筆された諸先生、記念号刊行にご尽力賜りました紀要委員の方々に深甚なる謝意を表し、巻頭のことばといたしたい。